

南アフリカ共和国におけるヘルスプロモーションを学ぶ 南アフリカ共和国 2019年2月16日~2019年2月24日

青森祐樹(健康総合科学科公共健康科学専修3年) 秋山浩杜(健康総合科学科公共健康科学専修3年)

白土航大(健康総合科学科公共健康科学専修3年)

研修の目的

本研修の目的は、1) 南アフリカ共和国 (以下、南アフリカ) において、どのような点に配慮してヘルスプロモーションが行われているかを学ぶこと、2) 在南アフリカ邦人の生活ストレス要因と文化適応について学ぶことだ。南アフリカには格差と分断をもたらしたアパルトヘイトの歴史があるため、ヘルスプロモーションに特徴的な配慮や困難があるのではないかと考えた。また歴史的・文化的差異の中で日本人がどのように暮らし適応しているかにも関心があったため、上記の2点を研修の目的とした。

南アフリカでの旅程と活動内容

2/18 (月)	Malaria Institute訪問 (JICAプロジェクト)
2/19 (火)	Malaria Institute、 Mamitwa Clinic (JICAプロジェクト)
2/20 (水)	在南アフリカ共和国日本国大使館
2/21 (木)	Soweto Independent Living Centre (JICAプロジェクト)
2/22 (金)	青森・白土: ヨハネスブルグ日本人学校
	秋山: 南ア日本人会

表. 活動日程と活動内容

1) Malaria Institute

マラリア予防のヘルスプロモーションに関して学ぶために、南アフリカのマラリア研究・データ管理を中心に行うMalaria Instituteを2日間訪問した。Malaria Instituteでは次の3点を学んだ。

- a.マラリア感染症数理モデル
- b.マラリア患者報告システム
- c.室内でのマラリア予防スプレー

また、スプレー散布作業現場とMamitwaの地域の診療所も見学した。





写真1. Malaria Instituteで学ぶ様子

写真2. スプレー散布作業の様子

2) 在南アフリカ共和国日本国大使館

現地日本人が抱える南アフリカ特有の問題や、邦人援護業務の内容と困難を学ぶために、大使館医務官の方に次の2点についてお話を伺った。

- a.大使館における産業医・医系外務官としての業務
- b.南アフリカ特有の邦人援護業務

3) Soweto Independent Living Centre

障害者を対象にしたヘルスプロモーションについて学ぶために、地域の障害者の自立した生活を支援するSoweto Independent Living Centre (以下、ILC) を訪問した。ILCでは次の2点を学んだ。

- a.活動内容と活動上の困難・工夫
- b. 今後の活動目標

また、ILCが行う地域障害者の家庭訪問業務に同行し、地域に暮らす障害者に生活の困難や目標を伺った。

4) ヨハネスブルグ日本人学校

日本と異なる環境での日本人への学校教育・健康教育について学ぶために、ヨハネスブルグ日本人学校を訪問した。日本人学校では校長先生に教育に関して伺い、校内の見学を行った。

5) 南ア日本人会

現地日本人の暮らしについて学ぶために、現地最大の日本人コミュニティである南ア日本人会を訪問した。日本人会では、南アフリカでの生活ストレス、南ア日本人会の行事と存在意義について伺った。

研修を通して学んだこと

研修で学んだ印象的な内容を3点を取り上げる。まず1つ目に、ヘルスプロモーションにおいて歴史や文化を踏まえる重要性を学んだ。本研修では南アフリカのヘルスプロモーションに歴史が関わっていることを多くの場面で学ん

だ。例えばMalaria Instituteでは、 綿密な患者報告システムの背景には イギリス植民地支配の歴史があること を学んだ。またILCでは、アパルトヘイトの歴史を踏まえて、南アフリカでは介 入対象を絞らないユニバーサルなヘル スプロモーションが求められること、その ために「障害者」と介入対象を絞った ヘルスプロモーションは批判されることも 学んだ。



写真3. Mamitwa Clinicで 患者報告システムを学ぶ様子

2つ目に、当事者の苦しみや語りを聞き取るスキルがないことを痛感した。家庭訪問で出会った障害者の苦悩は私達の想像を大きく超えるもので、スキルのない私達が彼らの語りを理解できたとは言い難い。この研修は自分たちの無力感を感じさせ、健康とは何かを改めて考えさせられる体験であった。また現地日本人のストレスについて、研修前に想像していたことと違うことも多く、コミュニティに入って暮らしを観察する難しさと重要性を学んだ。



写真4. 家庭訪問の様子

3つ目に、外国で学ぶことの意義を学んだ。外国での学習は、日本との共通点・相違点を見つけやすく、自分の学びを発展させることができると感じる。また現地の環境や文化を感じるには、実際に行くことが重要であろう。

反省点

本研修の反省点を3点挙げる。これらの反省を今後の活動に活かしたい。

- 1. 英語力が不足していたこと 準備をすることで部分的にカバーはできたが、もっと英語をスムーズに話 すことができればと歯がゆく思う場面もあった。
- 2. ILCの家庭訪問でうまくコミュニケーションできなかったこと 障害者にとって何が失礼にあたるかなどを考えてしまい、質問を躊躇ってしまった。事前学習をすることでもっとコミュニケーションできたと感じる。
- 3. 研修作業の分担と共有がうまくできなかったこと 全員で準備し、事前に学習した内容の共有をうまくすれば、現地での 学びをもっと得られたかもしれない。

結重五

本研修の目的として、南アフリカのヘルスプロモーションの配慮と困難を学ぶこと、南アフリカに暮らす日本人の生活ストレスと適応を学ぶことの2点を挙げて研修を行った。研修を通して、健康な生活をもたらすために歴史や文化を踏まえたヘルスプロモーションが必要であること、人々の暮らしを観察す

る難しさを学んだ。

今後は本研修の学びをもとに、日本 や世界の健康事象を自ら観察するこ とが必要となる。研修で得た体験と知 識を財産として、健康を捉える学習 活動に励みたい。

本研修に際して、お力添えをいただいた皆様に心より感謝を申し上げます。 ありがとうございました。



写真5. ILC前にてメンバーとの写真